

## ■地域発見講座

### 第1講 テーマ「魅せられて 甲賀」 -ALT 体験日記- (会場:甲賀市役所)

第1講は、甲賀市役所にて開催。市教育長である山下学長の激励の言葉後、今回もおはなしグループ「紙ふうせん」のストーリーテリング4題が披露されました。このプログラムは、ボランティア活動の1モデルとして登場していただいているものであり、地域づくり・子育て活動の参考になればとの意図が込められています。



そして、記念講演。講師は甲賀市の国際交流員バー・トマス氏。「魅せられて 甲賀」のテーマで、アメリカ人の眼には、「甲賀がどのように映っているのか」を語っていただきました。ALTとして市内小中学校で英語教育を担当。先生は、①児童・生徒たちの一生懸命さに感心する ②日本の掃除活動を見習いたい ③給食風景が新鮮だった ④夏休みのラジオ体操も



興味深い行事とのお話をされました。自分の生い立ちやミシガン州の様子もおりませで講義を組み立てていただき、印象に残る講座となりました。

受講生からの感想・意見は、「日本人以上に日本を愛しておられる様子に考えさせられることが多かった」「価値観の違いが新鮮だった」、ほか講師への応援エールが多数寄せられました。

### 第2講 テーマ「家康決死の伊賀越え」 交流会 (会場:多羅尾公民館・御斎峠)

受講生32名、スタッフ9名、事務局4名が参加。1582年6月2日、織田信長が明智光秀に討たれる、あの「本能寺の変」が勃発。当時信長側につき、大坂に滞在していた家康が、身の危険を感じ三河に逃れるという場面の歴史講座でした。桜峠か御斎峠か、はたまた、別のルートなのか。それは、記録や当時の社会勢力情勢から、徐々に明らかにはなっていますが、推測の域を出ない部分もあり、今も論議の的となっております。御斎峠は、近年では家康本人が越えたという説からは離れている状況(信長に反感をもつ音羽衆居住エリアに近い)のようです。いずれにしても、最終的には、本人に聞くよりほかに確実な方法はないようです。



この日は、講義後、御斎峠に行き、展望台まで登頂。伊賀上野の景色を眼下に眺め、家康に思いを馳せました。

その後、公民館に戻って交流会。お近くの田中様や地元の皆様におにぎりとお味噌汁・お漬物を作ってもらい、お皿替わりの朴葉(ほおば)の上で郷土の味を賞味させていただきました。「甲賀に住んでいるけれど、多羅尾に来たのは初めて」との方が多く、受講の皆様、一様に今回の経験を喜んでくださいました。

第3講 テーマ「甲賀の里でぶどうを育てる」 交流会 (会場:五反田公民館)

今年度、第6次産業最前線からは、なかお農園様。鈴鹿山麓の休耕田を活用したぶどう園が第3講の舞台となりました。大学での学習や起業までのプロセス、ぶどうに至った理由、そして、ぶどうの木の育て方、土壌づくり・房づくりなどを、整理された言葉で解説していただきました。専門機関の指導を受け、実らせることに成功された7種類ものぶどう。その味の特徴や皮ごと食べられる「シャインマスカット」「リザマート」のお話など、興味深いお話が続きました。



とりわけ、「ぶどうが語りかけてくる」「台風で傷んだ木から芽が出て、ぶどうに励まされていると感じた」…とのお話に多くの受講生が感銘を受けました。大事にされていることは、ぶどうそれぞれの個性、天候、時期、土壌。そして、研修と改良・開発。

受講生の記録には、①講師の話しぶりが率直・合理的で、かつ感性の豊かさが窺えて、とても聴きやすかった、②好奇心をいつも持たれ、次々と行動に移される姿に「自分もがんばろう」との力をもらった、③機会があれば、自分たちのイベントにも来てほしい…が記され、探求心と実行力、そして、ぶどうを見る温かい目に賞賛の拍手が送られました。この日は大変暑い日でしたが、冷えたブドウ入りのジュレをいただき、しばしの交流を深めました。

会場をご提供くださいました五反田区様ありがとうございました。



第4講 テーマ「お酒を知る お酒を楽しむ」 ～酒蔵見学～ (会場: 美富久酒造 KK)

創業1917年(T6)、美富久酒造様にて第4講を開催。この日は、のれんを守ってこられた歴史や酒造りの基本・工夫を聞く班と酒づくりの流れに添って酒蔵を見学する2班のローテーションで運営。酒好きにはたまらないほどいい匂いのする酒蔵でお話を聞き、この日も大変暑い日ではありましたが、気持ちのよい時間が過ごせました。飲み物としての酒だけでなく、酒には生活を豊かにする何かがある、酒は天の美禄(びろく=賜物)、酒にまつわる格言や箴言(しんげん:いましめの言葉)にも、興味深いものがあり、店に並んだ何種類ものお酒、その全てを一通り飲んでみたい気分させられました。



受講記録には、①お店の歴史や商品開発のあゆみがよくわかった、②仕込み水・甘酒・酒の試飲(運転者除)をさせていただき、印象深い講座となった、③宣伝活動を大事にされ、消費者への直接販売にも力を入れられるようになったのは正解と思う…等の感想がありました。“たくさんの感謝の気持ちを形にかえて、近江の地酒で贈り物”、こんなキャッチフレーズもスツと入る1日になりました。

美富久酒造様、また、駐車場をご提供くださいました NEC ライティング株式会社様、ご協力ありがとうございました。



## ■理論学習講座

### 第5講 テーマ「ビブリオバトルで広がる 本の輪 人の輪」

(会場：立命館大学 BKC)

受講生からの提案を受け実施することになったビブリオバトル。立命館大地域連携課に講座開設を働きかけると、ビブリオバトル創案者が当大学情報理工学部所属の谷口忠大教授とのこと。もちろん即座に OK。この日は、普及委員の木村准教授から、経緯・ルール・留意点など、基本的なことを学んだ後、各地の取り組みについても紹介をしていただきました。講座の後半は、あらかじめ依頼をしておいた3名の受講生にバトラーになっていただきバトル開始です。

最初の K・M さんは「わたしだけの般若心経読み書き手本（藤井正雄・石飛博光・杉本健吉共著）」を、続く A・T さんは「向こう岸に行った人々（野田秀樹著）」、最後の K・A さんは「やさしい日本語（庵功雄著）」を戦いのステージに上げてくださいました。

この別名、知的書評合戦。「初めての出会いでした」「歳をとると新しいことが入りにくくなる。器の広い自分でいたい」「久しぶりに本を読んでみようかな」「聞き手の大切さがよくわかった」「刺激的な講座でした」…、との感想が寄せられました。「自分の想像する世界が、自分を助けてくれることがある」とは、2018国際アンデルセン賞を受賞された作家角野（かどの）栄子さん。「本の力でまちづくり」、これは、あいこうか生涯カレッジ実行委員会。図書館の果たす役割が大きいことを改めて考えさせられるいい機会となりました。3人のバトラー様ありがとうございました。



### 第6講 テーマ「健康づくりとウォーキング」

(会場：立命館大学 BKC)

日本人の死亡に影響する要因。1位喫煙・2位高血圧で3位が運動不足、以下、高血糖、塩分高摂取、アルコール摂取…。この日の講義は、運動不足に焦点をあて進められました。まずは基礎理論。“身体運動時の代謝量が、安静時の何倍に相当するのかを示す尺度＝「メッツ METS」“を学習。そして、身体活動量（エクササイズ）＝METS×時間（h）で決まり、計算上、1エクササイズに相当する活動は、普通歩行で20分、速歩で15分であることを学びました。

また、1エクササイズ×体重×1.05＝消費エネルギー（kcal）となることも知りました。

その後、屋外に出て3メッツや4メッツのウォーキングを体感しました。最後は、サルコペニア（加齢による筋量及び筋力低下）とロコモティブシンドローム（運動器の障害のため移動



機能低下)を学びました。

講座日誌には、「サルコペニアは40歳位からはじまるに驚き」「3メッツや4メッツの歩行速度を体得したい」「講義と実技の組み合わせがよかった」「健康には何といてもウォーキング」「肥満の問題より、運動不足の問題の方が深刻」「75歳を越えると肥えているほうが寿命が長いにびっくり」「+10(プラステン=今より10分多く体を動かす)を実践したい」等が記録されていました。

## 第7講 テーマ「ふるさと近江の食文化」

(会場: 立命館大学 BKC)

“食べることを文化として考えていくのが「食の文化」。その本質は、食物や食事に対する態度を決めている精神の中にひそむもの、すなわち、人々の食物に関する観念や価値の体系であるといえる。“との定義づけが先ずなされました。その後、日本人の気質に基づいた「食」に関する「習わし」が、「和食:日本人の伝統的な食文化」と題して、ユネスコ無形文化遺産に登録されたこと、そして、「郷土食」の変遷等についてのお話がありました。



後半は「奥会津の木地師」。実話に基づいた実験的記録映画を視聴。インパクトのあるシーンに考えさせられることの多い講座となりました。



(Yahoo! JAPAN より借用)

講座日誌には、「郷土食の内容が脳裏に焼きついた」「食事に物語性を持たせる」など、食を見る目が変わったとの感想のほか、

「ビデオは衝撃的でした。木地師達の厳しい日常には我々学ぶべきものが沢山あるように思う」「近江から会津に移られた木地師に親近感を抱いた」「先人の知恵と技に感服」との記録をいただき、本カレッジのテーマに直接迫ることのできる講座となりました。

また、毎回講座を運営するスタッフに対しても、「よくしていただいて文句なし」との、温かい言葉をいただくようになりました。

## 第8講 テーマ「33年に一度のご縁・名刹の旅」

(会場: 櫛野寺・阿弥陀寺)

講座前半は、櫛野寺様を拝観。全面改築となった宝物殿で最澄作と伝えられる「十一面観世音菩薩」と対面させていただきました。三浦ご住職様よりその由緒をご説明いただき、慈悲に満ちた仏の世界を学びました。



観音様が33通りに姿を変え我々をお救いくださるとの教えにより、この大開帳は33年に1度ということですが、また、この日は、東京・大阪の博物館に寄託されていた仏様も里帰りされ、約80年ぶりに櫛野寺仏像群が勢ぞろいとなりました。このような機会に恵まれました生涯カレッジの幸運を喜び合いたいと思います。



講座後半は、東隣にある阿弥陀寺様にて、佐藤ご住職様より「名刹の旅」と題した法話を拝聴させていただきました。7枚もの資料を準備、増刷りまでしていただき恐縮の至りでした。

受講生の講座記録には、「この地域が昔から信仰の厚い地域であることを改めて感じた」「秘仏観音様に出会えてよかった」「仏像の制作にあたった仏師の思いに想いを馳せることができた」「本堂に設置されていた扇風機が講義のイントロになるとは予想できなかった」「『不求自得（ふぐじとく：求めずとも得る利益）』の言葉が印象に残った」「生老病死の話はじめ、佐藤ご住職様の仏教に対するお考えに興味を抱いた」など、この日は、「全ては心の持ちよう」を学びました。仏教のことを考える時間が持てたことに喜びを感じられた受講生も多かったようです。